

【本郷教室 教室長ブログ】 2月4日(土)

こんばんは。

教室長の大内です。

前回のブログでお伝えした
中3生の私立入試の結果をまとめた
教室通信を発行しました。

すでに在塾生の皆さんには配付し始めましたが
ホームページ上でも公開しています。

↓リンクを貼っておきます。

<https://www.study-f.com/swp/wp-content/uploads/2017/04/e55f8c40818263e51d61edb878a6af65.pdf>

最後に載せているこの画像



かなりインパクトのある画像ですよ。

生徒さん達にも反応があり、
受験勉強を象徴するフレーズのため
数年以上前から使いまわしております(笑)

昨年、ある中3生(現高校1年生)から
こう言われました。

先生～

これって・・・

「死ぬ気でやれねえから・・・って



どういうことですか？」

えっ！？ そう読むの！？

伝えたいメッセージと真逆（笑）！

ともかく！

受験生の皆さん！

残り2週間と少しになりました。

1問でも問題を多く解いて

志望校合格を絶対に勝ち取ろうね！

最後まで一緒に闘おう！



ところで、今日の中2の社会の授業で

幕末を扱ったのですが

吉田松陰が出てきたんですね。

勉強という点で、この人の素晴らしさを

いっぱい話したかったのですが

中1・中2の学年末試験が近く

満身に語るができなかったため

ここで語りたと思います（笑）。

吉田松陰は 1830 年
長州藩の下級武士の家に生まれました。

とにかく勉強に関しては秀才で

なんと **9 才で教師見習い** になります。

小学 3 年生くらいで教師・・・
すごいですよね。

小学生が、小学生に教えている状況です。

そして、彼の勤勉さは
自分の学力のためだけでなく、
15 歳の頃には海外の情勢
（近代国家への移行）を知り、
このままでは日本が危ないのでは・・・と
危機感を募らせます。

20 歳には、鎖国中でも限定的に貿易をしていた
長崎を旅して海外の事情を知ろうとします。

知ろうとするあまり・・・

停泊中のオランダ船に乗りこみます。

言葉の壁があったでしょうに、すごい！

そして、24 歳のとき
あのペリーが 4 隻の黒船で日本に来航します。

当時の日本の船は最大でも 100 トンあまり。

このときのペリーの黒船は・・・

2400トン！！

それが4つ！！

しかも、蒸気船なので日本からすると

「え？ 煙あげて進んでるんだけど？」

「風とか波とか、ものともしていないって、

ヤバくない？」

恐怖と混乱の極みだったと思うのですが、
松陰さんは・・・

黒船に乗り込みます。

そして、ペリーにお願いするのです。

海外に連れてって♥

探求心が凄すぎます。

(結局、許可されませんでした。)

そして、そろそろ気が付いたでしょう。

ええ、現代っぽく、表現を脚色しています (笑)

(内容そのものは嘘ではないと思いますので
ご容赦頂ければ幸いです。)

その後、このことが日本国内で問題になり
牢屋に入れられてしまうのですが、
そこで落ち込むどころか・・・

**「これで大好きな本が好きなだけ読める！
執筆活動もたくさんできる！」**

・・・と喜んだそうです。

※1年で600冊読んだとか。

そして、牢獄の中で囚人に

**「この本に書いてあったことがさ～
めっちゃ良かったんだよ！ 聞いて！」**

と語りだします。

囚人たちの反応は

「え？ 何こいつ？ やばっ！」という具合で
全く相手にされなかったそうですが、
次第に松陰さんの純粋な探求心に感化され
彼の話の耳を傾ける人が増え、
最終的には牢獄の看守までもが
松陰の話の聞くようになり、

牢獄が、ほぼ学校になったそうです。

その後、牢屋から出て、
実家で幽閉の身になってしまうのですが・・・

松下村塾という塾を開き、
武士や町民など身分に関係なく
約80人の門下生を集めます。

その中には、後の歴史に名を残すほどの
有名人が何人も！

最終的には 29 歳のとき
安政の大獄という事件の中で
処刑されてしまうのですが、
とにかく学問に対する探究心
学びたい！知りたい！という気持ちに対し
非常に純粹かつ誠実だったことが
伝わってくる人物だと思います。

そんな彼の名言がこちらです。

彼の指導を受けたいと希望する人が

「松陰さん！ 教えて下さい！」

・・・と、お願いをすると
彼はこう言ったそうです。

「あなたに教えることはできませんが、

私もあなたと一緒に学んでいきたい」

これは、かのガリレオ・ガリレイの名言に
通ずるものがあると思うんです。

「人にものを教えることはできない。

自ら気づく手助けができるだけだ。」

知識を吸収し、解き方を習得することで上達し
成績が上がります。

しかし、その吸収する作業、習得する作業は誰かにやってもらうのではなく自らの目と手と頭で実践しなければ身に付くものではありません。

教わっても無駄。

自分一人の力でどうにかしろ。

そう言っているではありません。

講師がポイントなる事柄を

できるだけ分かりやすく

役に立つ形で一生懸命教える。

そうやって学んだことをそのままにせず

復習するなり、問題を解くなどして

自分の力に変えていく。

真の成績アップはそこにあると思います。

少しでも分かりやすく伝え、

「自分も頑張ろう！」と

生徒さんに思ってもらおう。

それが私達、

教える立場の大人の仕事だと思っています。

何かエラそうなこと書いてしまいましたね（笑）

とにかく吉田松陰に学ぼう！ということで…。

さあ、公立入試も学年末試験も！

健康管理を徹底して

一緒に頑張りましょう！

大内